

I 理事長あいさつ

社会福祉法人 日本介助犬協会は、平成 16 年に社会福祉法人として設立、平成 21 年に「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘」を愛知県に開所し、介助犬の育成普及を通じて、「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」をモットーに、身体障がい者の自立と社会参加を支える社会福祉活動を続けて参りました。

昨年 8 月には、神奈川県より社会福祉法第 56 条に基づく指導監査を実施いただきました。今後とも介助犬訓練事業の主たる担い手として事業を確実にを行うため経営基盤の強化を図るとともに提供する福祉サービスの質の向上に努めてまいります。

平成 28 年度の介助犬貸与事業は、栃木県、三重県、岡山県の 3 組の介助犬ペアを誕生させることが出来ました。また、第 11 期介助犬訓練士研修生は 3 名が修了し、研修制度開始以来その多くが協会職員として事業の中核を担っております。

また、社会福祉法人に地域公益活動が求められるなか、犬を介した医療・福祉への貢献を行うべく地域の病院と連携し、動物介在活動（AAA）、動物介在療法（AAT）への取り組みを開始しております。

迎える平成 29 年度は、新たな運営体制のもとで、役職員一丸となり柔軟かつ精力的に取り組んで参りますので、これからも皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 日本介助犬協会
理事長 大島 慶久



鈴木さん&ワラン



山下さん&フェリックス



藤原さん&ダイキチ



Ⅱ 平成 28 年度 事業報告

1. 介助犬訓練事業

(1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬総合訓練センターにて、4組の合同訓練を行い、3組が指定法人より認定された。

(2) 犬の飼育及び訓練

① 候補犬の訓練

候補犬 39頭を確保し、訓練を行った。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して飼育指導

介助犬への可能性が高いと思われるパピーに対して早期訓練を行った。パピーホームボランティアに対しては、訪問指導と胎ごとグルーブレッスンを通して飼育指導を行った。また、昨年度パピー評価を開始し、評価を行ったパピー達が入所を迎えたため、評価結果を集計した。

(3) 繁殖、パピー、候補犬としての成犬の導入

① 自家繁殖により 2 回の出産を行い、12 頭のパピーを確保した。

② Career Dog Australia より6頭のパピーを導入した。

③ 関西盲導犬協会より5頭のパピーを導入した。また北海道盲導犬協会、東日本盲導犬協会、日本盲導犬協会、関西盲導犬協会より計6頭の盲導犬キャリアチェンジ犬を導入した。

(4) 介助犬使用者に対する継続指導

① 継続指導

新規認定者を除く全使用者 22 名に対し、「アフターチェック表」、「介助犬健康診断書」を送付し、書面による現状把握を行ったのち、訪問により実際の生活状況の確認を行った。特に新規使用者に対しては月 1 回程度の継続指導を行い、その他の使用者に対しても障がいの進行によるニーズの変化など、必要に応じた再訓練を行った。(訪問指導の合計 66 回)

その他電話・メール等での継続指導を行った。

(電話:101 回、メール:30 回)

② 使用者交流会

使用者同士の情報交換とハンドリング技術の向上を目的とした「使用者の集い」を 11 月 5 日(土)～6 日(日)に横浜にて開催した。参加ペアは 8 組であった。

(5) 就労支援

使用者の就労継続に関して相談支援を行った。

2. 人材育成・研究事業

(1) 訓練技術向上

① 合同訓練担当者の育成

1名の職員が合同訓練1ケース(中断ケース)、待機者対応1ケースを学んだ。

② 介助犬訓練士研修生の養成

第11期研修生3名が、介助犬の育成・普及活動に関わる全研修課程を修了した。

(2) 研修

① リハビリテーションセンター(名古屋市)への研修派遣(4日間) 3名

② 相談支援従事者初任者研修への研修派遣(6日間) 2名

③ スウェーデン補助犬訓練事業者への研修派遣(7日間) 1名

④ オーストラリアからの講師招聘(2日間)

3. 相談・指導助言事業

(1) 介助犬希望者への相談

① 介助犬体験会・相談会

介助犬に関心のある障がい者を対象に体験会を実施した。(センター1回、本部2回)
また、見学会終了後に相談会を開催し、希望者への相談・アドバイスをを行った。

名称	実施日	参加者数	開催場所
体験会	4月16日(土)	3名	横浜ラポール
	6月18日(土)	3名	センター
	12月17日(土)	2名	横浜ラポール
相談会 ・ 説明会	4月9日(土)	2名	センター
	4月16日(土)	2名	本部
	6月11日(土)	1名	センター
	7月9日(土)	1名	センター
	10月8日(土)	1名	センター
	11月12日(土)	1名	センター
	1月21日(土)	1名	センター
2月11日(土)	2名	センター	

4. 補助犬関係団体協力事業

(1) 補助犬団体との連携強化

北海道盲導犬協会での訓練犬評価への参加及び繁殖業務のための訪問、北海道盲導犬協会、日本盲導犬協会、東日本盲導犬協会、関西盲導犬協会、日本ライトハウスからの盲導犬キャリアチェンジ犬導入のための訪問を行った。

(2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

- ① ADI (Assistance Dog International) の認可団体になるために候補団体になった。
- ② プラハで開催された ADI カンファレンスに職員 1 名が出席した。
- ③ 職員 1 名が Kyno-Logisch (スウェーデンの盲導犬育成事業者) を訪問し、委託中の犬についての評価を行い、導入について意見交換を行った。G・R のブリーダー 4 か所を紹介してもらい訪問し、内 1 か所を導入先として確保した。
- ④ Career Dog Australia より Lauren Elgie 氏を招聘し、繁殖プログラムについての講義・コンサルタントを受けた。

5. 調査研究事業

(1) 学会への参加

日本身体障害者補助犬学会へ団体会員として加盟し、一般演題発表を行った。

日本身体障害者補助犬学会 第 9 回学術大会

【一般演題】

介助犬レイの生涯	事務局長 高柳 友子
地域社会における介助犬使用者と地域の関り、並びに育成事業者の役割一症例	訓練部 遠藤 大輔
介助犬貸与後の育成事業者と支援事業者の関り	訓練部 櫻井 友衣

日本リハビリテーション医学会にて一般演題発表を行った。

日本リハビリテーション医学会 第 53 回学術大会

【一般演題】

生きた補装具「介助犬」貸与後の継続指導 現状と課題	事務局長 高柳 友子
介助犬使用者の就労に関する調査報告	訓練部 柴原 永佳
特別支援学校の教員の介助犬認知度に関する調査	訓練部 田辺 冬香

(2) リハ専門職等との補助具の開発

リハ専門職、義肢装具企業と連携し、使用者が介助犬と暮らすために必要なハーネスの作成をした。

(3) 肢体不自由者のニーズ調査

全国の福祉機器展にて潜在的なニーズを持った希望者に対して情報提供・相談を行った。

実施日	名称	開催場所
4月21日(木) ～23日(土)	第22回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展 バリアフリー2016	インテックス大阪
6月2日(木) ～4日(土)	第19回国際福祉健康産業展 ウェルフェア 2016	ポートメッセ名古屋

7月29日(金) ～30日(土)	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2016	パンフィコ横浜
10月12日(水) ～14日(金)	第43回国際福祉機器展	東京ビッグサイト

6. 社会及び地域貢献活動

(1) 訓練犬、PR犬を使った病院等での訪問活動の実施

昨年度勤務犬ミカを貸与した聖マリアンナ医科大学病院への継続した指導実施を行った。

PR犬による動物介在活動を聖マリアンナ医科大学病院(2回)・箱根病院(4回)・川崎市立多摩病院(4回)で実施した。

(2) 障がい者・障がい児に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬譲渡

高次脳機能障害1名、身体障害(筋ジストロフィー)1名に対してキャリアチェンジ犬(ハウル、ソラ)を譲渡した。

発達障がい児のいる1家庭にキャリアチェンジ犬(ガウラ)を譲渡した。

7. 普及啓発事業

(1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 「介助犬フェスタ 2016」を開催した。

・身体障害者補助犬法の周知、介助犬への認知度向上を目的とし、「見る、知る、感じる、そして楽しむ」をコンセプトに愛・地球博記念公園・地球市民交流センターにて開催した。天気にも恵まれ、過去最高の6,300名を超える参加があった。

・感謝の集いを開催し、個人・法人会員、支援・協力企業、ボランティアに対して、2組の介助犬ペアが誕生したことを報告した。

② 地域に根ざした講演会を開催した。

実施日	名称	回数	参加者数	開催場所
毎月第2土曜日 (5・3月を除く)	一般見学会	10	594名 (総数)	センター
7月26日(火)	子供向け見学会	1	54名	センター
8月6日(土) 8月7日(日)	介助犬教室	2	6日12名 7日14名	ダッドウェイ
8月23日(日)	夏休み介助犬イベント	1	657名	ららぽーと横浜
3月5日(日)	オープンハウス	1	750名	センター

③ はたらくワンワンランド(JA共済連主催)

41 件を実施した。

(福島県、茨城県、栃木県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、岡山県、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県、熊本県、沖縄県 以上 20 都府県)

④ イベント・講演依頼を受け実施した。

- ・イベント・講演会 …… センター:197 件 本部:117 件
- ・訓練センター視察 …… 46 件 ※センター総来場者数:4,243 名
- ・職場体験学習の受け入れを 7 校 18 名に対し行った。

(2) デモンストレーター養成

啓発活動に特化したボランティア養成として、「介助犬デモンストレーター講座(初級)」を実施した。

- ・開催回数:センター1 講座(3 回)、本部 1 講座(3 回)
- ・受講者数:センター9 名、本部 3 名

現在デモンストレーションの MC としてセンター5 名、本部 3 名が活躍している。

(3) 普及啓発街頭募金活動

① 街頭募金啓発活動を行った

センター:42 回 本部:35 回 募金総額:4,840,756 円

② 小学校・中学校・スカウト隊・慈善団体等主催の街頭活動についても協力参加した。

(4) 募金箱設置

新規 90 個の設置を行い、全設置個数は 2,106 個となった。また、募金箱設置店への募金回収やリーフレット補充を行った。

(5) PR 犬の育成・訓練の実施

介助犬啓発活動に参加する PR 犬の作業力維持、並びに広報部職員の技術向上のため、訓練部と連携し PR 犬 10 頭の育成・訓練を行った。

また訓練部とも連携し、情報共有・技術向上ために定期的に PR 犬ミーティングを実施した。

(6) ボランティアの確保

年 4 回の交流会を開催しボランティアの方々との友好を深めた。

センター:5 月 1 日(土)、12 月 29 日(木)

本部 :9 月 4 日(日)、3 月 4 日(土)

また、犬の扱いについての講習会をセンターで 8 回、本部で 4 回行った。

(7) 賛助会員の新規入会促進・管理と継続支援者の確保

個人会員:1,860件 法人会員:129件

法人会員へ継続的な支援のお願いのため訪問に努めた。

(8) 『ほじょ犬の日』登録

『ほじょ犬の日』5月22日(日)普及啓発イベント・講演会においてPR活動を行った。

8. 広報活動

(1) マスコミ対応

以下の取材を受けた。

内 訳	件 数
新聞掲載	62件
テレビ放送	8件
ラジオ放送	15件
雑誌・広報紙掲載	33件
合 計	118件

(2) 広報物の作成

見学会、講演会やイベント等で上映する、協会の新しい紹介ビデオを作成した。

(3) 会報・HPの制作

会報制作では、編集委員会で企画を提案し実施した。ホームページでは、トップページに新作動画を入れて一新した。また、カート機能を追加しチャリティーグッズの販売促進を行った。

(4) ツイッター・フェイスブック等の活用

更新を頻繁に行いフォロワーや「いいね」数を増やし介助犬の啓発を行った。

ツイッター:フォロワー …2,278件 フェイスブック:「いいね」…8,375件

Instagram:フォロワー …383件

9. 補助・助成

(1) 介助犬貸与に関する補助

平成28年度認定者在住の栃木県、三重県、岡山県より、介助犬貸与に対して給付される予定。

都道府県名	補助金額
栃木県	160万円
三重県	150万円
岡山県	194万円

(2)啓発事業に関する補助

愛知県より、介助犬啓発事業の補助として 103,000 円が給付予定。

長久手市より、介助犬広報啓発事業の補助として、300,000 円が給付。

(3)助成団体事業

名 称	金 額	事 業 内 容
全国生活協同組合連合会 中央共同募金会	300 万円	身体障害者のための介助犬普及・啓発 事業 介助犬使用者の不在地域での情報共有 のためのネット動画作成
毎日新聞大阪社会事業団(シンシア基金)	30 万円	ボランティア向け講習会(犬関連)
在日米国商工会議所 中部支部 ACCJ/NIS 中部ウォーカーソン	60 万円	海外からのパピー購入費
豪日交流基金	113 万円	オーストラリアから講師招聘。 パピー購入費
愛知県共同募金会	54 万円	窓ガラス飛散防止フィルム施工

(4)団体・企業等(使途指定寄付)

名 称	金 額	内 容
デンソーグループはあとふる基金	19 万円	介助犬育成・訓練に必要な物品(サンダ ーシャツ、T タッチハーネス等)の購入
豊田西ロータリークラブ	20 万円	パピー購入費の一部、パピーケープ購入
京都橋ライオンズクラブ	150 万円	繁殖犬導入
ネットトヨタ中部株式会社	291 万円	福祉車両
株式会社道千	35 万円	ノートパソコン 2 台